

用語集

【ア】

赤潮

プランクトンが爆発的に増殖し、海面が赤色や赤褐色に変わる現象。閉鎖性水域において夏季に起きやすく、窒素、リンなどによる富栄養化が原因とされる。

アマモ場

藻(も)場とは、沿岸域の海底でさまざまな海草・海藻が群落を形成している場所を指し、アマモ場とは、主として種子植物であるアマモなどの海草(seagrass)により形成される藻場を指す。

【イ】

硫黄酸化物(SO_x)

硫黄の酸化物の総称。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときなどに排出される。硫黄酸化物は水と反応すると強い酸性を示すため、酸性雨の原因になる。

一酸化炭素(CO)

重油やガソリンなどが不完全燃焼した場合に発生する無色無臭の有毒ガスであり、自動車の排出ガスが主な発生源で環境を汚染する物質の1つである。

【ウ】

雨水浸透施設

雨水を地中に浸透させる雨水浸透ます、雨水浸透トレンチ、雨水浸透舗装(浸透性アスファルトなど)の施設を指す。地下水の保全を目的としている。

【エ】

エコツーリズム

地域の自然観光資源を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる自然環境の保全や歴史文化の保全に責任を持つ観光の在り方。

【オ】

温室効果ガス

地球は太陽から日射を受ける一方、地表面から赤外線を放射しているが、その赤外線を吸収し、熱を宇宙空間に逃げないように閉じ込めておく温室の効果をもつ気体。「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄の6物質としている。

【カ】

海岸保全施設

高潮・波浪などの海岸災害から背後の人命や財産を守る役割を担う施設であり、防波堤、消波工、人工リーフ(潜堤)、水門、内部護岸などがある。

化学的酸素要求量(COD)

水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸素量をいい、mg/Lで表す。生物化学的酸素要求量(BOD)とならんで、水質汚濁の目安となる指標。

活断層

断層のうち最近の地質時代(数十万年位の間)に繰り返し地震を発生した形跡があり、今後も地震発生の可能性があるもの。

環境基準

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音について、「人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準」として、環境基本法に基づき行政上の具体的目標として定めたもの。

なお、ダイオキシン類の環境基準については、ダイオキシン類対策特別措置法により「人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準」として定められている。

環境ナビゲーションシステム

横須賀市では、民間事業者が実施する開発や行政が主体となる大規模な開発は環境にさまざまな影響を及ぼす可能性があることから、開発行為などを実施する事業者が、環境特性から開発地域の配慮事項を検索できるように、全国で初めて開発した本市独自のシステム。

【キ】

拠点ネットワーク型都市

市街地の集約化に向けて、地域特性を考慮しながら、拠点市街地となる主要鉄道駅周辺などに適正に都市機能を集積し、郊外の市街地から街中居住を促進するような、歩いて暮らせる魅力的な都市のこと。

近郊緑地保全区域

「首都圏近郊緑地保全法」に基づき、大都市圏に存在する良好な緑地を保全するため、国土交通大臣により指定された土地の区域。

近郊緑地特別保全地区

「首都圏近郊緑地保全法」に基づき、近郊緑地保全区域の緑地の中で、樹林地等に類する土地が特に良好な自然環境を形成し、相当な規模の広さを有している土地の区域で、それを保全するため、都市計画法の地域地区として都市計画決定される。

地区内では建築行為など一定の行為の制限などにより現状凍結的に保全する地区をいう。指定後の行為制限、買取条件などについては、都市緑地法の「特別緑地保全地区」と同じ。

【ク】

グリーン購入

購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを優先して購入すること。

【コ】

光化学オキシダント

工場、自動車などから排出される窒素酸化物や炭化水素が、一定レベル以上の汚染の下で紫外線により光化学反応をおこし、生じた物質。

光化学スモッグ

光化学オキシダントや視程の低下を招く粒子状物質（エアロゾル）を生成する現象、あるいはこれらの物質からできたスモッグ状態のこと。

公共用水域

河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域およびこれに接続する公共溝渠（給排水のために水を流す公共の溝）、かんがい水路、その他公共の用に供される水路。

合流式下水道

下水を排除する方法の一つで、汚水と雨水を一緒に集めて下水処理場で処理する方法のこと。

港湾法

交通の発達および国土の適正な利用と均衡ある発展に資するため、環境の保全に配慮しつつ、港湾の秩序ある整備と適正な運営を図るとともに、航路を開発し、および保全することを目的としている法律。横須賀港は、1951年（昭和26年）に港湾法により準特定重要港湾に指定され、1953年（昭和28年）に横須賀市が港湾管理者となっている。

港湾緑地

臨港地区や港湾区域など、港湾施設としての公園・緑地。

コージェネレーション

発電とともに発生した排熱も利用して、冷暖房や給湯などの熱需要に利用するエネルギー供給システムで、総合熱効率の向上を図るもの。

【サ】

再生可能エネルギー

自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギーの総称。太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱、大気中の熱、その他の自然界に存する熱など、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しない地球環境への負荷が少ないエネルギーといわれている。

【シ】

市街化区域

無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、「都市計画法」により指定された区域区分。市街地として積極的に開発・整備する区域で、すでに市街地を形成している区域、およびおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域を指定。

自然林

人の手が加えられていない自然状態の林。代表的なものとして、シイ・カン・タブ林などがある。

市民緑地制度

土地所有者からの申し出により、300㎡以上の土地について、市民利用など土地の公開を前提として市と契約を結び、市が管理を行うもの。

臭気指数

人間の嗅覚によってにおいの程度を数値化したもので、採取した試料を無臭空気（または無臭水）で希釈し、においを感じなくなるまでの希釈倍率により算出した指数。

悪臭防止法においては、特定悪臭物質（22種類）の濃度規制および臭気指数での規制が盛り込まれている。

充電ステーション

EV（電気自動車）やハイブリッド車、電動二輪車のために充電サービスを提供する設備。

循環型社会

廃棄物の増大と限りある天然資源の浪費を防ぎ、将来においても持続可能な社会を構築するため、資源の循環を促し、環境への負荷を少なくする社会システムのこと。2000年（平成12年）に制定された「循環型社会形成推進基本法」では、(1)ごみを出さない、(2)出たごみはできるだけ利用する、(3)どうしても利用できないごみはきちんと処分する—の3つを提示している。

【セ】

生物化学的酸素要求量(BOD)

水の汚濁の度合を表す指隠水中の有機物が好気性微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量をいい、mg/Lで表す。値が大きいほど水中に有機物が多く、水が汚れていることを示す。

【タ】

太陽光発電システム

太陽光のエネルギーを直接的に電力に変換するシステムのこと。太陽光を電気（直流）に変える太陽電池と、その電気を直流から交流に変えるインバータなどで構成されている。現在、日本で多く利用されている住宅用の太陽光発電システムでは、電力会社と電気の売買をする系統連係型と、バッテリーに発電した電気をためながら使う独立系型のふたつのシステムに分かれている。

高潮

台風または低気圧などによって潮位が上昇する現象のことで、風津波、暴風津波ともいう。

主に気圧の低下による海水の「吸い上げ効果」と、風による海水の「吹き寄せ効果」によって発生する。

【チ】

窒素酸化物(NOx)

窒素の酸化物の総称。主に石炭、石油の燃料などが高温で燃焼するときに酸化され発生する一酸化窒素(NO)と、大気中で一酸化窒素が徐々に酸化し

た二酸化窒素(NO₂)のことである。ボイラーなどを設置する工場や自動車などから発生する。紫外線的作用を受けて炭化水素と反応し、特殊な気象条件のもとで光化学スモッグの主因物質になったり、雨に溶けると酸性雨の原因ともなる。

【テ】

低公害車

窒素酸化物(NO_x)や粒子状物質(PM)などの大気汚染物質の排出が少ない、または全く排出しない、燃費性能が優れているなどの環境にやさしい自動車のこと。

低騒音舗装

車両のタイヤと路面による騒音を、通常の舗装より小さくする舗装。通常の舗装は、自動車が走行するとき、タイヤと路面の間に入る空気が圧縮・膨張し騒音を発するが、低騒音舗装では、空気を舗装中に逃がすことができ、騒音を低減(3dB程度)する効果がある。

低炭素社会

二酸化炭素の排出を、経済発展を妨げることなく、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑えた社会。化石燃料使用量の削減、高効率エネルギーの開発、エネルギー消費の削減、資源の有効利用などによって実現を目指すこととされている。

適応策

地球温暖化によって生じる環境への影響に対して適応を図るための取り組み。

【ト】

東京湾内湾

観音崎を挟んだ北側の海(観音崎と富津岬を結んだ線の内側)のこと。「横須賀港港湾環境計画」においては、追浜地区から新港地区を「再生のエリア」、新港地区から走水地区を「活生のエリア」と位置付けている。

特定外来生物

「特定外来生物による生態系等に係る被害防止に関する法律」において指定される、外来生物(海外起源の外来種)の中で、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

都市緑地法

良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与することを目的として、都市における緑地の保全および緑化の推進に関して必要な事項を定めた法律。

【ニ】

二次林

過去に伐採などの人為が加えられ、その影響を受けている森林、または現在も下草刈などの人為が継続的に加えられていることにより成立している森林。

【ネ】

熱帯夜

最低気温が摂氏25度以上の夜間(夕方から翌朝まで)のこと。

【ハ】

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

廃棄物の定義や処理責任の所在、処理方法・処理施設・処理業の基準などを定めた法律。「廃掃法」とも略称される。

1970年(昭和45年)に、従来の「清掃法」を全面的に改めて制定された。廃棄物の排出抑制と適正な処理、生活環境の清潔保持により、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることが目的。

【ヒ】

ヒートアイランド

都市部において高密度にエネルギーが消費され、また地面の大部分がコンクリートやアスファルトで覆われているため水分の蒸発による気温の低下が妨げられて、郊外部よりも気温が高くなっている現象。

光害

良好な照明環境の形成が漏れ光(照明器具から照射される光のうち、その目的とする照明対象範囲外に照射される光)によって阻害されている状況またはそれによる悪影響。

【マ】

真夏日

一日の最高気温が摂氏30℃以上になる日のこと。

【ユ】

有害化学物質

人間の健康や生態系などに悪影響を及ぼす化学物質の総称。現時点において、種類や使用量、人や環境への影響などが十分に把握されていない物質も数多くある。

有害大気汚染物質

低濃度であっても長期的な摂取により健康影響が生ずるおそれのある物質のこと。科学的知見の充実の下に、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるよう施策を講じることとされている。該当する可能性のある物質として234種類、そのうち特に優先的に対策に取り組むべき物質(優先取組物質)として次の22種類がリストアップされている。

有害鳥獣

人間生活に対し、生命的・経済的に害を及ぼす鳥獣のこと。鳥獣本来の食性によって、人、家畜、農作物、樹林、農林水産物などを食害するものが大部分である。

【リ】

リスクコミュニケーション

化学物質による環境リスクに関する正確な情報を関係者で共有しつつ、相互に意思疎通を図ること。

緑地協定

「都市緑地法」に基づき、都市の良好な環境を確保するため、緑地の保全または緑化の推進に関する事項について、土地所有者等の全員の合意により協定を結ぶ制度。

緑被率

樹木や草地など植物で被われた土地の占める割合。

林床

森林の地表面のこと。光が林冠により遮られるため、耐陰性の強い植物や菌類などが生育する。

林相

木の種類や生え方などによる、森林の様子・形態のこと。